

9月議会市政報告

9月6日、第293回市議会定例会が開催されました。

浜田純市長は、各議案の提案理由に先立ち、市町村合併について『南国・香美・芸西合併検討会』を組織し、合併問題を検討してきました。南国市としては、これらの市町村が合併すれば産学官の連携による産業の活性化、合併特例債等を活用した農業の振興対策及び森林整備等の林業活性化が図られ、新しい産業拠点都市としてのまちづくりを進め、安定した成長都市を実現できるとの視点で参加してきました。しかし、香美郡内の動きは、香北3町村が独自の検討を始めるなど複雑な状況にあり、残る香美郡内の香南5町村と芸西村で議論されています」とその概要を述べた後、主要な課題について報告しました（内容はあらまします）。

行政改革

さらなる改革の推進

南国市行政改革実施計画書に基づき、平成7年度から平成12年度まで行政改革に取り組み、おおむね目標を達成しています。未達成目標を総括する準備をしています。

防災対策

危険箇所パトロール実施

台風シーズンに備え、7月19日に南国警察署・南国土木事務所・南国市消防本部・南国市関係各課による災害危険箇所パトロールを実施しました。

交通安全対策

スローガンを掲げ啓発活動

7月6日南国市交通安全市民会議総会を開催し、市内小学生を対象とする交通安全ポスターの募集やスローガン「交通安全は家庭・地域・職場から」「高知の交通マナーを高めよう」を決定するなど、



9月21日から秋の全国交通安全運動に向けて準備をしています。

7/21 県内初の「年少女モーターサイクルスポーツスクール」開催

国民健康保険

及び老人保健

改正後の十分な

対応を目指す

健康保険法が改正され、10月から、70歳以上の高齢者の自己負担分は、原則1割となりますが、低所得の高齢者に

は負担軽減措置などが示されるとともに、少子化対策として、3歳未満の乳幼児の給付率が8割に引き上げられています。

これらの改正内容に対応するため、受給者証の発行や所得把握、さらに市民への啓発などを含め、十分な対応をしていきたいと考えています。

介護予防・生活支援事業

南国郵便局と連携し、

高齢者の生活状況の確認

8月から南国郵便局の協力により、「高齢者等への生活状況確認業務事業」を始めています。この事業は、郵便局職員が郵便物配達時に高齢者等への声かけを行い、異常があった場合には、保健福祉センターなどへ連絡するという事業です。

なお、今後もさまざまな団体との連携を図っていききたいと考えています。



人権問題

講演会による

人権啓発の推進

女性問題については、6月16日に落語家で教育評論家の桂文喬さんを講師に迎え、「なんこく男女共生かがやきプラン」策定記念講演会を行いました。男女共同参画の講演会にふさわしく6組のご夫婦や市内外からの参加を含め約90名の参加者がありました。

また、「なんこく男女共生かがやきプラン推進懇話会」を設置し、プランの効果的な推進を図るための具体策について意見交換を行っています。



7/13 ヒューマンライツ講演会

同和問題は、7月10日から7月20日までの「部落差別をなくする運動」強調旬間に、市役所1階ホールで幼稚園児と小学生

の作品を集めた「人権パネル展」を開催。

7月13日には、脚本家の丘乃れいさんによる「ヒューマンライツ講演会」を開催し、約70名の参加者がありました。識字学級での出来事やご自身の体験に基づく説得力ある話が参加者に好評を得ました。

市立図書館

開館日を利用しやすく変更

市民の要望に応えるため、10月から日曜日開館、月曜日休館とし、また、来年度から平日の開館時間を午前10時から午後6時までの開館とすることを目指しています。

初の「南国市子ども議会」を開催

新しいまちづくりのために

環境問題・障害者問題・高齢者福祉の問題などについて、子どもらしい素直で感性豊かな

な要望や提案をいただきました。



子ども議会では、貴重な声を市政に積極的に反映させていきたいと考えられています。

環境美化

みんなでゴミのない

生活環境づくり

河川・海岸愛護意識の高揚の一環として、7月20日の海の日には、早朝から約1千人の市民の参加を得て、市内海岸の一斉清掃を行いました。

6月の環境月間の市内一斉清掃については、今年は国体秋季大会前の実施ということ、10月20日に行う予定をしています。

道路改良

早期完成に向けて

国庫補助事業市道中島1号線は、用地買収のめどが立ちましたので、10月には工事を発注する予定です。

国庫補助事業市道南国212号線外山川第1橋の架け替え工事は、地質調査が終わり、用地交渉は残っているものの橋梁の設計に入っており、12月には工事を発注する予定です。

救急車1日同乗

研修生を受け入れ

病院収容前救護を

学び将来に役立てる

救急隊員により傷病者が医療機関に搬送されるまでの処置、プレホスピタルケア（病院収容前救護）を救急車に1日同乗することにより理解し、今後、医師として医療現場で役立てていくことを目的に、本年度高知医科大学学生21名を研修生として受け入れていきます。